

三重塔

伝統的には、仏塔は重要な聖者のための記念碑として建てられるが、現在は仏が祀られる場所とも理解されている。この塔内には大日如来を中心に、五智如来が奉安される。また、板壁に十六羅漢(涅槃に到達したとされる仏)の彫刻がめぐらされている。

1712 年に建てられたこの 25 メートルの仏塔は、日本の重要文化財である。各層の外縁には竜、「麒麟」(縁起の良い、蹄を持つ神話上の生き物)と「獏」(悪い夢を食べるとされる神話上の生き物)が立体的に彫られている。これらの生き物は平和なときに現れるため、平和を願うことを象徴する。塔の底の下には雲水紋の彫刻が施されている。これは一枚板で作られた珍しい構造である。

1981 年から 1983 年にかけて、三重塔の漆塗りと彩色の工事が 1803 年の書物に基づいて行われ、建立当初の美しさが蘇った。